

オーナー経営者のための M&A活用法セミナー

in 東京

中堅・中小企業でもM&A(企業の合併・買収)を事業譲渡や新事業進出に活用する動きが盛んだ。そこで中堅・中小企業のM&A仲介に強みを持つストライクは2月9日、日刊工業新聞社と共催で「オーナー経営者のためのM&A活用法」をテーマに都内でセミナーを実施した。基調講演ではトッキ創業者の津上健一氏がM&Aで逆境をチャンスに変えた豊富な体験を披露。ストライクの荒井邦彦社長は後継者のいないオーナー経営者に向けてM&A活用の魅力を語った。大阪・名古屋・福岡・仙台・札幌でも順次開催を予定。

「逆境をM&Aでチャンスに変える」

ティーケーアソシエイツ取締役会長 津上健一氏



工作機械メーカーのツガミで営業を経験したあと、1967年に津上特機を設立した。工作機械システムの販売を目的に個人で立ち上げた。経営基盤を強化するため、86年にはグループ4社を合併し、トッキとなる。念願がかなった91年にはジャストックに上場を果たすが、新しい事業展開が図れず、相変わらず浮き沈みの激しい工作機械関連に依存する経営が続いていた。ちょうどこの頃、ポスト液品といわれた有機ELの試作機開発を進めるようになり、99年に世界で初めて量産装置が完成した。現在の日立ハイテクノロジーズと、資本業務提携と海外代理店契約を結び、世界市場へ打って出た。販売は順調に伸び、2年で世界シェア8割を獲得する。

役員は退任するも取締役社長と取締役は継続するなどの条件を提示。キヤノンは最終的に全て受け入れてくれ、10年9月100%子会社になることができた。企業は社会の公器であり、すべてはステークホルダーのためにある。M&Aによりトッキは存続し、私の息子が社長を継いだ。ここへきて有機EL市場はほとんど拡大しており、売上高120億円(2010年12月期)は今期には約4倍と大幅増が見込まれている。

「知っておきたい事業継承のための税金」

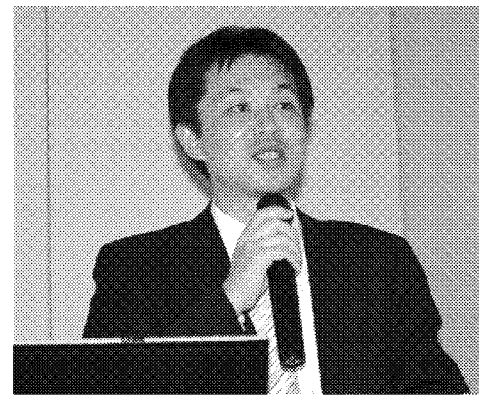
税理士法人無十税理士 畑中孝介氏

津上さんの話にもあったように、オーナー経営者は売却の判断をした時に、何を守りたいのか、従業員の雇用なのか、老後のための生活資金なのか、優先順位を明確にする必要がある。順位付けがないまま、とにかく会社を売りたいというのは、われわれ税理士も一番やりにくい。売るのは機械でも土地でもなく、生きていく会社である。高く売ると売却側は幸せでも、買収側は投資回収が難しくなり、結果残された従業員のリストラや減給などにつながらりやすい。無理に高く売るのはなく、その後の存続まで考えた適切な価格で売却すべきではないだろうか。

また、M&Aにおいて税金は重要なポイントになる。手法を間違えると、年商2億円の企業でも納税額が数千円も増えてしまう。税金はコストであり、きちんとプランニングすることで制御可能になると考えられるべきだ。会社を売却する際には、売却側の税金だけに目が行きがちだが、買収側の税金をセーブすることができると、結果的には売却価格の上乗せの可能性もつながるので、買収側および存続する会社にも配慮をしたタックアッププランニングが重要である。

「事業継承を考えている経営者のためのM&A活用法」

ストライク代表取締役 荒井邦彦氏



当社は、後継者のいない中堅・中小企業のオーナー経営者をクライアントに、M&Aの仲介を主業務としている。企業価値評価や財務調査、デューデリリジェンス

最近ではオーナー企業でも息子さんや父親の会社を継ぎたいというケースが増えている。そうした後継者のいないオーナー経営者が引退する時の選択は、親族外への承継、廃業・清算、M&Aの3つしかない。親族外への承継は、資産家でなければ株式を買収する資金がないばかりか、銀行の連帯保証を肩代わりできないという問題点がある。株式を親族で相続し、社長は親族外に任せる方法もあるが、所有と経営が分離しているがために、時間の経過とともにオーナー家と経営陣の対立が起きていくケースをよく見かける。また廃業・清算は雇用喪失や資産価値を著しく減損するだけならまだしも、現実には借金が残るケースも多い。何より企業そのものが消滅してしまつて、従業員や顧客に相当な迷惑をかける。

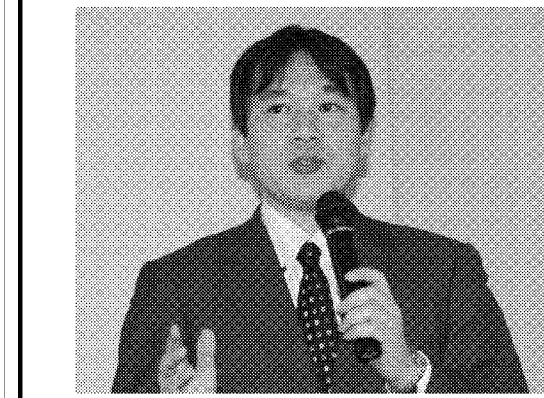
これに対してM&Aは、廃業・清算と違ってそのまま会社が残り、社員が職場を失わず、資産価値も維持できる。良い会社なら営業権を資産価値プラスαで売却できる。オーナーには会社の売却代金が入り、銀行の連帯保証からも解放される。売却される会社にとっても買収手企業との相乗効果により事業を進展させることができる。所有と経営が一致することから生じる強いオーナーシップも発揮できる。身内に後継者がいるオーナー会社は、親族内で承継するのが一番良いのだが、親族内に後継者がいない場合はM&Aで売却するのが唯一の選択だと言つてよいだろう。

譲渡の理由を分類してみると、後継者不在が50%と半数を占め、以下、業績不振(21%)、非中核事業からの撤退(14%)と続く。後継者不在の中身をみると、会社の将来を考えた結果(29%)、健康上の理由(9%)、第2の人生を楽しみたい(7%)の順で上位を占めた。会社の将来のため

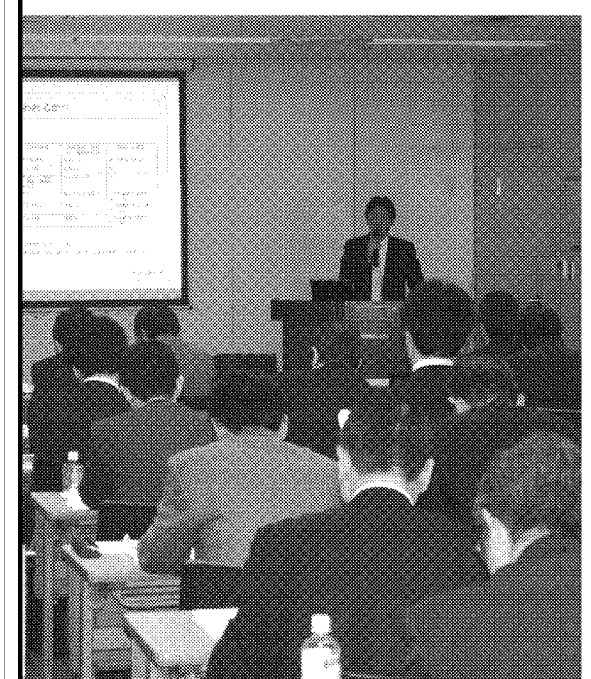
と回答した経営者の多くは、とくに第二の人生の目標を決めているわけではないが、健康で判断能力がしっかりしているうちに、会社を売却しておこうとの思いがある。会社を手放さないと第二の人生を楽しむ余裕が持てなくなるとの思いもある。

会社を売却すると決断するまでにはいろいろと逡巡するだろうが、いざ売却すると決めてからは通常6ヶ月程度、早ければ3ヶ月程度で完了する。M&Aの流れは、初期相談に始まり、仲介契約、概況把握、提案先企業の選定・探索、トップ面談、基本合意、デューデリリジェンス、譲渡契約、引き継ぎ開始の順に進められる。この間、秘密保持などの観点から、ごく限られた幹部にしか知らせないで進められる。場合によっては社長一人で進める場合もある。経営者にとっては孤独な作業だが、そこをサポートするために仲介会社が必要なのだ。

長く経営した会社を去るのは寂しいものだが、だからといって売り時を逃してはならない。売り時を逃したばかりに、会社を清算せざるを得なくなった事例は枚挙にいとまがない。会社の存続を図るためにはM&Aを成功させることが欠かせない。そしてM&Aを成功させるには売り時を逃さないことが一番重要だ。会社の調子が良いときはどうしても手放すのが惜しくなる。しかし、手放すのがもったいなく思えるぐらいの会社だからこそ買手がつかうのだ。会社を譲渡したオーナー経営者のその後の人生は多彩だ。ご夫人と世界各地を巡る旅を楽しんでいる人、病気の療養に専念する人、郷里で専業農家に転身した人、思い切って海外移住した人、写真や陶芸などの趣味に生きる人、全く新しい事業に挑戦する人、など十人十色だ。オーナー経営者にとってのM&Aとは、後継者問題という経営課題から開放されるための方法であり、悠々自適な第二の人生を手に入れるための手段である。



役員は退任するも取締役社長と取締役は継続するなどの条件を提示。キヤノンは最終的に全て受け入れてくれ、10年9月100%子会社になることができた。企業は社会の公器であり、すべてはステークホルダーのためにある。M&Aによりトッキは存続し、私の息子が社長を継いだ。ここへきて有機EL市場はほとんど拡大しており、売上高120億円(2010年12月期)は今期には約4倍と大幅増が見込まれている。



オーナー経営者のための M&A活用法セミナー

大阪・名古屋・福岡・仙台・札幌

順次開催!!

対象：オーナー企業の経営者(層)または経営企画部門の責任者
希望者には終了後、M&Aの専門家による無料相談有(申込時に登録ください)
※同業者の申込みは固くお断りいたします。参加票をお持ちいただいても参加できません。

主催：日刊工業新聞社 共催：株式会社ストライク

セミナーのお申し込みは… <http://sp.nikkan.co.jp/html/ma-strike/>

事業譲渡や事業継承を実現する効果的な手段として、M&A(企業の合併・吸収)が注目を集めています。高度成長期に急成長した中堅・中小企業でも世代交代期を迎えてM&Aを活用して他社に事業譲渡したり、事業の「選択と集中」を進め、新分野に打って出たりする動きが相次いでいます。

日刊工業新聞社では、(株)ストライク(M&A助言会社)と共催で「オーナー経営者のためのM&A活用法」と題し、以下の内容でセミナーを順次開催。オーナー経営者にM&Aの有効性や課題を訴求していきます。講師にはM&Aの専門家や税理士とともに、M&Aを用いて事業譲渡や事業継承を実現させた経営者(売り手)をお招きし、M&A成功のツボをお話しいたします。皆様のご参加をお待ちしております。

<p>大阪</p> <p>日時：3月2日(水) 13:30~17:00</p> <p>会場：日刊工業新聞社大阪支社セミナールーム</p> <p>定員：50名(先着順)</p>	<p>プログラム</p> <p>13:30 M&A 自己採点は60点 14:30 株式会社地域サービス 代表取締役 永井 英彰氏</p> <p>14:40 知っておきたい事業継承のための税金 15:40 税理士法人無十 税理士 畑中 孝介氏</p> <p>15:50 事業継承を考えている経営者のためのM&A活用法 16:50 株式会社ストライク 取締役 石塚 辰八氏</p>
<p>名古屋</p> <p>日時：3月9日(水) 13:30~17:00</p> <p>会場：日刊工業新聞社名古屋支社セミナールーム</p> <p>定員：30名(先着順)</p> <p>後援：中小企業基盤整備機構 中部支部</p>	<p>プログラム</p> <p>13:30 逆境をM&Aでチャンスに変え企業変革と成長 14:30 ……そして苦境に直面、危機突破へ ティーケーアソシエイツ株式会社 取締役会長 津上 健一氏</p> <p>14:40 知っておきたい事業継承のための税金 15:40 税理士法人無十 税理士 畑中 孝介氏</p> <p>15:50 事業継承を考えている経営者のためのM&A活用法 16:50 株式会社ストライク 代表取締役 荒井 邦彦氏</p>
<p>福岡</p> <p>日時：3月16日(水) 13:30~17:00</p> <p>会場：日刊工業新聞社西部支社セミナールーム</p> <p>定員：30名(先着順)</p> <p>後援：福岡県中小企業振興センター</p>	<p>プログラム</p> <p>13:30 逆境をM&Aでチャンスに変え企業変革と成長 14:30 ……そして苦境に直面、危機突破へ ティーケーアソシエイツ株式会社 取締役会長 津上 健一氏</p> <p>14:40 事業継承を考えている経営者のためのM&A活用法 15:40 株式会社ストライク 取締役 石塚 辰八氏</p> <p>15:50 事業を譲渡されたオーナー様向けの資産運用について 16:50 福岡銀行ソリューション営業部 コンサルティング金融部 プライベートアドバイザーグループ シニアマネージャー 前原 裕子氏</p>
<p>仙台</p> <p>日時：5月18日(水) 13:30~17:00</p> <p>会場：ハーネル仙台 6F はぎ</p> <p>定員：30名(先着順)</p>	<p>プログラム</p> <p>13:30 会社を譲渡した2代目社長の苦悩と決断 マキ自動車工業株式会社 代表取締役 大塚 一之氏</p> <p>14:30 知っておきたい事業継承のための税金 15:40 税理士法人無十 税理士 畑中 孝介氏</p> <p>15:50 事業継承を考えている経営者のためのM&A活用法 16:50 株式会社ストライク 代表取締役 荒井 邦彦氏</p>
<p>札幌</p> <p>日時：6月15日(水) 13:30~17:00</p> <p>会場：かでの2・7 北海道立道民活動センター 540 会議室</p> <p>定員：30名(先着順)</p>	<p>プログラム</p> <p>13:30 M&A 自己採点は60点 14:30 株式会社地域サービス 代表取締役 永井 英彰氏</p> <p>14:40 知っておきたい事業継承のための税金 15:40 税理士法人無十 税理士 畑中 孝介氏</p> <p>15:50 事業継承を考えている経営者のためのM&A活用法 16:50 株式会社ストライク 代表取締役 荒井 邦彦氏</p>